








メンバー	父の出身	性別	年齢	出生年月日	プロフィール
 <p>アントニナ (エミコ) エスコビリヤ フィリピン日系人会(ダバオ市)会長</p>	広島	女	75	1940年 5月9日	広島県出身の父は、移民としてダバオに渡り、そこで母エナと出会った。二人は1935年に結婚し、マルガリート(トシマ)、ラファエラ(ミエコ)、アントニナ(エミコ)、チュオフィロ(カツマサ)の4人の子どもをもうけた。戦前、家族はダバオ市ポニファシオ通りの、父が建てた家に住んでいた。開戦後、父は日本人と行動をとるとし、母と子どもたちは避難したため、それ以来連絡がとれなくなった。母と子どもたちは山奥で数か月の避難生活を送った。マルガリートは学校へ通っていたが、父親が日本人と知った人々にけがをさせられて帰宅することが多かった。ココナツの木に縛り付けられていたことも一度あり、このようなことのため、母は自分や子どもたちの姓を自身の旧姓に変えて、日本人の家族であることを隠した。戦後の生活は苦しく、母がタバコや果物売って得た収入で、子どもたちを学校に通わせた。子どもたちも、靴磨きや新聞売りなどをして家計を助けた。
		現住所		ダバオ市	
 <p>カルロス (刘吕) 寺岡 フィリピン日系人連合会前会長 元在バギオ名誉総領事</p>	山口	男	84	1930年 12月25日	山口県出身の父は、フィリピンに渡り大工業に従事していた。兄2人、妹2人と弟の6人兄弟。戦前はバギオの日本人小学校に、尋常科1年から入学して教育を受けた。父は1941年に結核のために死亡。戦争が始まると、本人は戦闘機に憧れ、海軍飛行予科練習生に志願を考えるが、年齢が若く、入ることはできなかった。終戦期には、敗走する日本軍についてジャングルに逃げ込んだが、食糧不足で、栄養失調やマラリヤ、赤痢に苦しんだ。兄1人はスパイと疑われて日本の憲兵隊に、もう一人の兄はフィリピンゲリラに殺され、母、妹1人と弟をアメリカ軍の爆撃で亡くしている。
		現住所		マニラ首都圏サンファン市	
 <p>レムエル (マサハル) ヨシムラ 身元未判明2世代表</p>	不明	男	72	1942年 9月16日	父は戦前にイロイロ市エスタンシアへ移り、「フジシヨクドウ」というレストランなどを経営していた。両親は1936年にアンティケ州にて結婚。レムエル(マサハル)、ジョーダン(ヒデオ)、エドガー(ヒサシ)の3人の子どもをもうけた。父は終戦前に、他の日本人とともにフィリピンを離れるために船に乗り、母と子どもたちはフィリピンに残った。強い反日感情のため、母は自分と子どもたちの姓を、父のものから母の旧姓へ変えた。戦後、母は幼稚園教諭として働き、本人も放課後や週末にオナツツやタバコを売ったり、靴磨きをしたりして家計を助けた。本人が9歳位の時に母が亡くなり、3人の子どもたちは別々の家庭に引き取られた。本人は働きながら大学を卒業し、学校の教師になり、後に校長まで務めた。2009年3月10日、東京家庭裁判所に就籍を申し立てても、2013年10月23日に却下となる。現在、再申立の準備中。
		現住所		サウスコタバト州コ罗纳ダ市	
 <p>ベネディクト (マサヨシ) 大成 フィリピン日系人連合会元会長 セブ日系人元会長</p>	広島	男	78	1936年 10月8日	父は広島県出身で、フィリピンへ渡り大工業に従事していた。両親は、ベネディクト(マサヨシ)とフリオ(オサト)の二人の子どもをもうけた。戦中の1942年、父はフィリピン軍により殺された。母と子どもたちは山に隠れ、飢えに苦しみながらも生き延びた。反日感情のある中、からかいなどを避けるために、母と子どもたちは日本の姓ではなく、フィリピンの姓を使うようになった。戦後は、母が餅菓子を作るなどして生計を立てた。
		現住所		セブ州マンドラウエ市	
 <p>エステリータ (ミチコ) ロアレス 中北部ミンダナオ日系人会前会長</p>	東京	女	78	1936年 11月5日	父は商人としてフィリピンへ渡ってきた。ラナオ・デル・スル州マラウイ市にて、鍋や台所用品を売る店を営んでおり、共同経営者として「ヤサムラ」という日本人がいた。マラウイ市で母と出会い、1935年に結婚。エステリータ(ミチコ)、エンリケタ(タミコ)、ドロシー(アキメ)、アデライダ(ヨシコ)、ヒロシ、ペドリートの6人の子どもをもうけた。戦争中、家族はキャンプ・キトレイと呼ばれる日本軍基地に移り住んだ。本人は日本語の歌を習ったり、他の日本人家族と交流があったことを覚えている。その後、日本軍がマラウイに移動したのとともに、家族も移動した。母は幼い子どもたちのことを思い、それ以降の移動を拒み、日本軍についていかなければいけなかった父とはマラウイで分かれることになった。山で避難生活を送った後、食料がなくなったため、母と子どもたちは、未亡子の布おむつで白旗を作り投降した。戦後、母と子どもたちはコタバト市に住み、苦しいながら生計を立てた。
		現住所		コタバト市	
 <p>イネス マリヤリ (日系3世) フィリピン日系人連合会会長</p>	鹿児島(祖父)	女	44	1971年 4月20日	祖父は、ダバオ南部のカリナンという地区で、饅頭を売る商人だった。戦中、祖父は、祖母と3人の子どもたち(ヒサコ、ミチコ、タツオ)を、祖母の親戚がいたボホール島へ連れていった。祖父はセブ経由で日本に帰るつもりで、戦争が終わったら家族を迎えに来ると約束していた。しかし、セブで乗った船が米軍の爆撃を受けたため、祖父は亡くなった。3人の子どもたちは日本名をフィリピン名に変えることになった。生活は苦しく、3人とも小学校までしか通っていない。戦後はダバオに戻ったが、彼らの所有物はフィリピン人に奪われていたため、生活を最初から立て直さなければならなかった。
		現住所		ダバオ市	
 <p>ステファン ケリコ ポニ (日系3世) PNLSCマニラ 理事長</p>	東京(祖母)	男	54	1960年 12月5日	祖母が看護師として働いているときに、フィリピンから派遣されていた医師である祖父と出会い、1917年に東京で結婚した。長男ペドロがその後すぐに東京で生まれている。同年、祖父は長男を連れてフィリピンに移り、そこでさらに5人の子ども(メアリー、カルメン、ロベルト、ベンハミン、ドリス)をもうけた。1934年に、フィリピン政府により、祖父は再度日本に派遣され、家族を連れて一年仕事に従事した後、フィリピンへ戻った。戦中の1943年、祖母は心臓発作のためにフィリピンで亡くなり、7か月後、祖父も急性肺炎のために亡くなった。
		現住所		マニラ首都圏ケソン市	